

## 平成 30 年度 第 2 回大豆島公民館運営審議会会議録

- 1 日 時 平成 31 年 3 月 1 日 (金) 午後 1 時 30 分から 3 時まで
- 2 場 所 大豆島公民館 視聴覚室
- 3 出席者 北村 清人 (大豆島地区住民自治協議会会長)  
久保田 学 (長野市立大豆島小学校校長)  
倉島 富士子 (大豆島地区更生保護女性会会長)  
轟 保則 (大豆島地区民生委員児童委員協議会会長)  
中村 征司 (大豆島保育園園長)  
西沢 節 (学識経験者)  
町田 公雄 (大豆島公民館副館長)  
町田 良夫 (前大豆島地区住民自治協議会会長)  
丸山 忠良 (市立大豆島公民館館長)  
白石 洋一 (市立大豆島公民館係長)  
(田中委員は欠席)

### 4 審議事項

- (1) 平成 30 年度大豆島公民館事業報告について  
(2) その他

### 5 審議内容

長野市立公民館条例第 15 条の規定により、委員の過半数の出席を満たしており審議会は成立していることを報告して開会した。

#### (1) 平成 30 年度大豆島公民館事業報告について

事務局 (事務局から報告)

委員長 第 1 回の運営審議会で市民運動会について「午後になると参加者が少なくなる」とか「50 歳以上の人が参加できる種目を増やして」という意見が出ていたが今年度に反映されているか。

事務局 体育部長・主事等で検討した結果、今年度については昨年度と同じプログラムで実施することになった。運動会後の反省会では、未就学児童の風車ひろいを、お母さんに配慮して午前中に実施してはどうかという意見が出た。

また、綱引きについては、決勝戦までに 3 回競技を行うため選手の疲労が大ききことからあり方を検討する。新種目についても検討する。

委員 市民運動会は地区のビッグイベント。人が集まるかどうかは 1 つのバロメーターとなる。魅力ある種目と歯切れのある運営、高齢化に合わせた種目を検討してほしい。時間短縮しても効率のよい、盛り上がる大会にしてほしい。

委員 球技大会の報告に優勝チーム名を入れてもよいのでは。発掘調査速報展では、観覧に来た人に記帳してもらえば、地区外から来た人の動きが見えるのでよいのでは。

委員 巴の錦の苗頒布会でも参加者に受付簿に記入してもらっている。遠く市外から参加した人もいた。

7地区で行う挿し芽講習会のことも事業報告に掲載してはどうか。

事務局 挿し芽講習会は（地域公民館の）本館の事業として行っているので、市立公民館としての事業報告には載せていない。

委員長 次世代育成支援事業について何か意見は。

委員 まめっ子ふれあい広場は、公民館職員を中心に毎年度良い講座を企画してもらっている。年間通して参加する親子もいる。まめっ子サロンにはボランティアとして参加している。もっと手伝いができればよい。

委員長 ふれあい広場もサロンもそれぞれ長い歴史がある。他地区からも参加してもらいたい。

委員 まめっ子サロンは以前とくらべて若いお父さんが参加してくれる。地区内の参加者も増えて70%くらいある。子どもの話相手として父の立場で参加してくれる男性のボランティアがほしい。

## (2) その他（大豆島公民館の今後のあり方検討委員会について）

事務局 あり方検討委員会は、前住民自治協議会会長の提案で設置したもの。

第1回では、教育委員会家庭・地域学びの課に来てもらい研修会を開いた。また、指定管理の運営が順調な公民館とそうでない公民館の視察の提案があった。

第2回では、いくつかの公民館に視察を打診したところ1館だけ視察することができた。

第3回では、視察結果から指定管理のメリット・デメリットを洗い出した。

第4回では、市直営と指定管理の両方で公民館長経験のある方に来ていただき、指定管理のメリット・デメリットについてお話を伺った。

第5回では、これまでの検討内容を踏まえて「指定管理者制度は現段階では導入しない」という結果に至った。結果は教育委員会家庭・地域学びの課へも報告した。

もう1つの検討課題である公民館の交流センター化については、来年度から3年間、4つの公民館でモデル試行することになっているので、とりあえず、あり方検討委員会は解散することとした。交流センター化については、あらためて公民館で公民館利用団体も含めて委員を選任して検討委員会を設置したい。

委員 モデル試行する4つの公民館はどこか。

- 事務局 市直営では柳原と小田切、指定管理では篠ノ井と長沼。
- 委員 大豆島公民館の交流センター化に関する検討委員会はいつ頃設置するのか。
- 事務局 おそらく、2年目あたりに市からモデル試行に関する報告があると思われるので、検討委員会は市の動向を見ながら設置したい。
- 委員 交流センター化について各公民館はどのように捉えているのか。
- 事務局 公民館長会では反対意見が多い。
- 委員 市立公民館の交流センター化は3年間のモデル試行を見て判断するのがベター。大豆島公民館もモデル試行の動向を見て、利用者のニーズの変化も見極めて検討するべき。